

## 松川事件現地学習に参加！

10月28日、JR総連東北地方協議会主催の「松川事件現地学習」へ、東北地青から阿部青年部長、大久保事務長が参加しました。

### 松川事件とは？

1949年（昭和24年）8月17日午前3時9分（当時はサマータイム制：午前2時9分）青森発奥羽線廻り上野行き、第412列車が、東北本線 金谷川～松川駅間の、現在の下り線（当時は単線）のカーブの先で脱線転覆した。東京起点261k259mの地点であった。外側のレールは犬釘が抜き取られ、レールとレールの継ぎ目部の鉄板（継目板）と、それを支えているボルトとナットが外されており、長さ25m、重さ1tのレールは曲がらずに左斜め前方に13mもはね飛ばされていた。機関士1名、機関助手2名が犠牲となった。その後の捜査により、20名が「えん罪」で逮捕され、無罪を勝ち取るまで14年にわたる裁判を総じて、「松川事件」と呼称している。



発生当時は、戦後の時代のうねりに伴い、激しいインフレがありました。アメリカは日本の労働運動の高まりを心配し、アメリカの占領軍と日本政府は、国鉄職員などの公務員や、民間企業の社員の大量の人員整理（リストラ）を強行するに至りました。その混乱のさなか、「松川事件」は発生しました。関わったとされる20名が「えん罪」で逮捕され、「人員整理に反対闘争中、警察の干渉をそらすために共謀して列車転覆を計画し、線路破壊工作をして機関車を脱線転覆させ、機関士ら3名を死なせた」という要旨で起訴されました。そこから14年、4度もの裁判を経て、20名全員の無罪が確定しました。検察側の持つ証拠や証言はどれも正確性に欠け、不十分なものと証明したのは、被告やその家族が、諦めずに無罪を主張し続けた結果です。

**松川事件から、権力が意図する本質を  
学び取り、労働者の感性を磨いていこう。**